

2 各園の実践事例

(1) 0歳児

0歳児 実践事例 好きなおもちゃであそぼう (10月)
 観点 (人とのかかわり) 視点 (協同性 ~いっしょにやろうよ~)

【遊びの経過】

保育者や友達のしている遊びに興味をもち、同じ動きを模倣したり、同じおもちゃで遊んだりする姿も見られるようになった。保育者が仲立ちをすると、「どうぞ。」「ありがとう。」などのしぐさをしてかかわりを喜んでる。

【ねらい】

好きなおもちゃで遊んだり、保育者や友達の真似をしたりして遊びを楽しむ。

【評価】

- ・自分の好きなおもちゃを見つけ、思い思いに遊びを楽しんでいる。
- ・保育者や友達のしている遊びを見たり、やってみようとしたり、真似をしようとしたりしている。

【〇幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★落ち着いた遊びが楽しめるよう、見やすく手が届きやすい場所に遊びのコーナーを設定する。

〇自分の好きな遊びを楽しむ。

いない、いない
 ばあ。出てきた。
 【驚き】【好奇心】



楽しそうだな。
 【興味・関心】
 【好奇心】

おもしろいなあ。
 【好奇心】【興味・関心】

■一人一人が自分の好きな遊びをゆったりと楽しめるよう見守りながら、楽しい気持ちに共感したり、指さしや表情から思いを受け止めたりするとともに、子どもの思いを言葉にして伝えるようにする。

〇友だちのしていることを真似て遊ぶ。

何だろう。【疑問】



はい、どうぞ。
 【人とのかかわり】

何だか楽しそう。
 【期待感】【好奇心】

■好きな遊びを楽しみながら、自然に友達とのかかわりがもてるよう声掛けをし、仲立ちをしていく。
 ■友達の持っているものが、気になって、取り合いになる時は、お互いの気持ちをくみ取りながら声掛けをして気持ちを満たしていきけるよう関わる。

- ★保育者や友達がしている姿がよく見えるように大型の「ポットン落とし」を用意する。
- ★一人一人がやりたい遊びを楽しめるようにおもちゃを十分に用意する。

入るかなあ。
 【没頭】【思考】



よし。入った。
 【満足感】

ぼくもしてみようかな。
 【意欲】【模倣】

■保育者がポットン落としをして見せたり、友達の様子を知らせたりして、興味をもてるようにする。
 ■うまく穴に入らない子どもには、必要に応じて手を添えるなど、「できた。」という満足感が得られるようにする。
 ■「入ったね。楽しいね。」と楽しさを共感し、まわりの子どもにも知らせて興味・関心を広げていく。

【考察】

大好きな絵本の動物が出てくることを喜び、繰り返し紙をめくりに来たり、「ばあ。」と声を出しながらめくったりする姿があった。ままごとや「ポットン落とし」を見ているだけだった子どもも、友達がしているのを見て興味をもち始めた。「どうぞ。」「ありがとう。」など保育者や友達とのやりとりも楽しんでおり、一人遊びから人とのかかわりを楽しむ姿に変わってきた。子どもたちが安心して周囲に働きかける中で、友達と共に過ごすことの喜びを感じ、満足感を味わうことができるように、保育者は言動や表情を見守りながら適切な援助を工夫していきたい。

0歳児 実践事例

公園に出かけよう (10月)

観点 (生活) 視点 (健康 ~元気いっぱい~ 運動)

【遊びの経過】

はいはいや歩行が活発になってきたこの時期、保育室を出て園内探索を楽しんできた。さらに園外へ活動範囲を広げ、地域の公園へと出かけるようにしている。子どもたちは、広い場所で開放感を味わいながら、色々な場での探索や歩行を楽しんでいる。

【ねらい】

戸外で、自ら体を動かすことを喜ぶ。

【評価】

- ・公園内の色々な場所で、たくさん歩いたり、はいはいしたりして進んで体を動かすことを楽しんでいる。

【0歳児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★現地をあらかじめ下見し、動きや遊びの予測を立て、安全に遊べるように職員を配置する。

○公園内の遊具で遊ぶ。



上ってみよう。【チャレンジ】

よいしょっと。【意欲】



がんばるぞ。【意欲】

保育園のより大きいな。【好奇心】

- 自由に探索できるように全体を見る保育者、子どもの側で見守る保育者と役割を分担し、広い公園内や遊具で安全に遊べるようにする。
- 傾斜や段差、遊具の高さなどのある所でも意欲的に挑戦する姿を認め、危険のないように見守るとともに、手を添えたり、体を支えたりするなど個々に合った援助をしていく。

★さらにたくさん歩いたり走ったりできるよう、隣接する広い芝生の方へ移動する。

○広い芝生の上で遊ぶ。

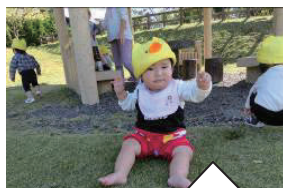
逃げろ逃げろ。【安心感】【信頼感】

いっぱい歩くよ。【意欲】【挑戦】



- 遠くの景色や青空を子どもたちと一緒に眺め、心地よさを言葉で伝えることで、開放感を味わいながら自分から進んで体を動かせるようにする。
- はいはいや歩行、かけっこを楽しめるよう、一緒に体を動かしたり、「おいで。」と呼びかけたりして、たくさん活動できるようにする。

○東屋で休憩したり、遊んだりする。



いっぱい動いたな。【達成感】

いないいない、ばあっ。【多様な動き】



楽しいね。【喜び】

- 時間や子どもたちの様子を見て東屋に誘い、涼しい場所で心地よい風を感じたり、休憩をとったりできるようにする。
- かくれんぼや探索遊びを楽しめるよう声をかけたり、満足するまで一緒に遊んだりしていく。
- 帰る支度へと誘いながら、たくさん遊んだ満足感を言葉にして伝える。

【考察】

運動遊具を使った室内遊びから廊下や階段、遊戯室へと活動の場を広げ、次の段階として戸外での活動を設定した。公園では、広い空間や大型すべり台、砂場など普段とはちがうものや場所にどんどん挑戦しようとする姿、広場ではどこまでも続く芝生の緑や空の青さ、心地よい風などを五感で味わい、のびのびと体を動かし遊ぶ姿や笑顔が多く見られた。このように自然の中でのびのびと体を動かして遊ぶことで体のいろいろな機能の発達が促される。保育者は、戸外の環境そのものや子どもの関心が戸外に向くような動線の見直しに努める必要がある。また、月齢差、体力などの個人差に配慮しながら、自ら喜んで心と体を動かそうとする意欲を育てていくために、組織的、計画的に日々取り組んでいきたい。

【遊びの経過】

天気の良い日は戸外遊びを楽しみ、芝生の上をはいはいや歩行などで移動することを楽しんでいる。また、園外にも出かけ自然事象を肌で感じたり、果物、植物、生き物に興味を示し、指さしをしたり、触ってみたいりする姿も見られた。

【ねらい】

落ち葉の感触を楽しみながら、戸外で遊ぶ気持ちよさを味わう。

【評価】

・落ち葉の音や手触りの不思議さなど、落ち葉の感触を楽しみながら遊んでいる。

【0歳児の活動】

★環境の構成

■保育者の援助

★子どもたちが安全に遊べるよう、落ち葉に混じっている危険物を取り除く。

★赤・黄・茶色など色とりどりの木の葉が十分にある場を確保する。

○落ち葉に興味を示す。

ひっぱってみよう。

【興味・関心】【没頭】

触ってみたいな。

【好奇心】【意欲】



破れたよ。
【発見】

かけてあげるね。
【人とのかかわり】



- 保育者も子どもたちと一緒に落ち葉に触れ、手触り、におい、色彩、音などに興味を持てるような声かけをし、知らせていく。
- 落ち葉を口に入れないように、十分に気をつける。
- 「どうぞ」「ちょうだい。」など保育者が子どもの動き、思いを言葉に代え、友達との関わりを楽しめるようにする。

★落ち葉を入れる袋やバケツを準備する。

★友達とぶつかったりしないよう、十分な場所を確保する。

○落ち葉の感触を楽しみながら様々に遊ぶ。

投げてみよう。

【意欲】

やったあ。

できた。

【満足感】

葉っぱ持ってきたよ。入れて。

【人とのかかわり】



動くとき音がするよ。
【発見】
【興味・関心】

いいよ。
【自己決定】【共有】

ふんでみよう。
【好奇心】



カサカサ音がしたよ。
【発見】



- 走る、はいはいをする、寝転がる、投げるなど保育者も楽しみ、子どもの様々な動きを引き出せるようにする。
- 遊びに入れない子どもには無理をしないようにし、そばで見守りながらそっと落ち葉を手渡し「カサカサ」「パリッ」など落ち葉の音や感触が感じられようにする。
- 投げる、集める、ちぎるなど子どもたちが遊びを楽しんでいる姿に「わあ。すごいね。」「上手、上手。」などの声をかけ、満足感を味わえるようにする。

【考察】

大量の落ち葉に興味を示し、投げたり破ったりする子どもや、落ち葉の上でかけっこやはいはいをする子どもなど、それぞれにしたい遊びを見つけ、落ち葉の感触を楽しむことができた。また、個々の活動だけでなく、友達に落ち葉を渡したり、一緒にビニール袋に入れたり、友達との関わりも見られた。自然に触れて遊ぶことで、保育室内ではできない体験を味わうことができる。四季折々の自然に触れる機会を増やし、子どもたちの興味関心が広がるような環境を工夫するとともに、自然との出会いが子どもの心を揺り動かしている瞬間を見逃さないように、保育者が子どもとかわっていくことが重要と考えている。

【遊びの経過】
「寝返りをする→座る→はう→歩く」と自ら体を動かせるようになったことを喜び、楽しんでいくうちに、全身を使ってよじ上ったり、くぐったりして遊ぼうとする姿が多く見られるようになってきた。

【ねらい】
思いきり体を動かして遊ぶことを楽しむ。

【評価】
・保育者に誘われたり、友だちが遊ぶ姿を見たりする中で、上る、はう、くぐるなど、自ら体を動かすことを楽しんでいる。

【〇幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

★一人一人の発達に合わせて楽しく安全に遊べるように、段差、空間を用意する。

★環境構成図

低い台	台	階段	台	
跳箱	階段	台	マット	
斜面	台			
	段			
マット(斜面)	段			
	ベッド	マット		
階段	斜面			

〇腕、膝、足等を使って段差を上り下りする。

できるかな。
【好奇心】【意欲】

ぼくも行けるかな。【模倣】【判断】

手も足も伸ばして。あとちょっとだ。
【チャレンジ】【多様な動き】

下りられるかなあ。
【チャレンジ】【思考】

やったあ。上れた。【満足感】

あっちの遊びもやってみよう。
【意欲】【興味・関心】

うれしいなあ。もう一回やってみよう。
【自信】【達成感】

■色々な高さや硬さの台やマットを組み合わせ、自分の力を試しながら、次のステップへ挑戦できるようにしていく。
■上りきった時には共に喜び、「もつとしてみよう。」と思えるように、保育者も一緒に上り下りを楽しみ、遊びを盛り上げていく。
■つかまることや座って足から下りることなど、分かりやすく知らせたり、手を添えたりして安全に下りられるようにする。

★トンネル内の空間の大きさを変えられるように、布団や牛乳パック製の台を用意しておく。

〇トンネルをくぐる。

でこぼこ、ふわふわしているなあ。【探究心】
【興味・関心】

こうやって出てみようかな。
【好奇心】
【動きの工夫】

もっと進んでみたいな。【意欲】【好奇心】

もう少しで出られるぞ。
【チャレンジ】【見通し】

やっと出られた。
【達成感】

■出口付近からのぞき、「おいで。」と誘うことで、入ってみようと思えるようにしていく。
■くぐれた時には、「やったあ。」と声をかけたり抱きしめたりして喜びを共感し、繰り返してみようという意欲につなげていく。
■慣れてきたら布団や牛乳パック製の台などをトンネル内に入れ、狭いところをくぐることで、自分の体の動かし方に意識を向けられるようにしていく。

★環境構成図

トンネル(布団)	
トンネル(マット・牛乳パック)	トンネル(マット)

【考察】
トンネルの幅や床面、段差の組み合わせ等に変化を持たせて環境を構成していくと、全身で広さ・高さなどを確かめ、動きを工夫しながら遊ぶ姿が見られるようになった。また、子どもの気持ちに寄り添い、励まし、共に喜んでいくことで、自信や意欲につながってきている。保育者との温かい触れ合いの中で、遊びを通して体を思いきり動かすことの心地よさを味わうことを繰り返し体験させていきたい。また、自分から進んで体を動かそうという意欲が育つように、手をついて体を支える、はうなどの様々な動きが十分に経験できる遊びを大切にしながら、一人一人が楽しくチャレンジしたくなる環境の構成を工夫していきたい。